

## タイ中等教育における日本語学習者の特性

## Beliefs Regarding Japanese Learning of Thai Students in Secondary School

小林 亜古 (Ako Kobayashi) 指導：保崎 則雄

## 1. はじめに

国際交流基金 (2013) によると、近年東南アジアでの日本語教育の拡大が注目を浴びており、中でもタイにおける学習者数の伸びが著しく、特に中等教育の学習者が増加し、その割合は8割を占めている (表1)。こうした背景の中、文部科学省がASEAN地域との連携を強化させるため、「日本語パートナーズ」というプログラムを開始した。これは海外の日本語教育機関に日本人がアシスタントとして授業に入りティームティーチングを行うというものである。今後も日本人教師の派遣が予定されており、日本語教育への貢献が期待されている。

## 2. 研究背景

## 2.1 BALLI調査について

Howitz (1987) は、外国語教師25名を対象に) 言語学習の適正 (Foreign language aptitude)、2) 言語学習の難易度 (The difficulty of language learning)、3) 言語学習の性質 (The nature of language learning)、4) 学習とコミュニケーション・ストラテジー (Learning and communication strategies)、5) 動機 (Motivations) の5領域の34項目から構成される「言語学習ビリーフ調査票 (Beliefs About Language Learning Inventory以下、BALLI)」BALLIを使用し、ビリーフが学習ストラテジーに影響していること、学習者のビリーフが様々であることを明らかにした。日本語教育でも、様々な目的に合わせた項目によるBALLIの応用版で調査がなされている。

## 3. 調査概要

## 3.1 調査目的

本研究の目的は、タイ中等教育機関でティームティーチングによる授業を受けている日本語学習者のビリーフを調査することである。さらに自由記述より得られた日本語の授業における学習者の気持ちをカテゴリー化し、どのような回答があるのかを検証することで、今後のTTの在り方を考えるための基礎資料を提供する。

## 3.2 被調査者

学校 タイ国内の「日本語パートナーズ」派遣校5校

学年 中学2年：7名、高校1年：70名、  
高校2年：95名、高校3年：97名

性別 男性79名、女性173名、無回答17名

クラス 専攻クラス：212名

選択クラス：56名

学習歴 5ヶ月～6ヶ月(平均月数20.5ヶ月) 12ヶ月以下：86、13～24ヶ月：93名、25ヶ月以上：79名、無回答：10名

## 3.3 調査方法

使用した質問紙は片桐 (2005)、森 (2011)、國本 (2010)

を参考に日本語学習に関するビリーフ調査紙を作成した8領域) 1) 教師の性格特性、2) 媒介語、3) 教師とのコミュニケーション・インターアクション、4) 教室不安、5) 日本語での自尊感情、6) 教授法、7) 言語学習と文化の関係について、8) 言語学習の性質の35項目からなる。回答は「5.強く思う」「4.そう思う」「3.どちらでもない」「2.そう思わない」「1.全くそう思わない」の5段階のリッカート尺度である。

## 4. 結果と考察

## 4.1 因子分析結果

まず、どのような要因がTTの満足度に影響を与えるのかを検討するために、探索的因子分析を行った。その結果、3つの因子が抽出された。抽出された因子をそれぞれ、第一因子「文化体感」、第二因子「不安」、第三因子「自尊感情」と命名した。これらの因子と満足度の相関を表2に示す。満足度と文化体感、満足度と自尊感情、授業内容と自尊感情に正の有意な相関が見られた。そして自尊感情と不安得点の間には有意な緩い負の相関があることがわかった。これは、不安の高い人は自尊感情が低い傾向にあることと、あるいは自尊感情の高い人は第二言語不安が低い傾向にあるということがいえる。

## 4.2 ビリーフ調査結果

調査結果からまとめると、タイ中等教育の日本語学習ビリーフの傾向は次のようになる。

- (1) NNTとNTによるティームティーチングに対し好感を持っている。
- (2) 語彙学習が重要だと考える傾向にある。
- (3) 日本文化学習が日本語学習の一助となると考えている。
- (4) アクティビティーのある参加型の教室活動を望む。
- (5) 日本語を話すことに対し、不安を持っている。
- (6) 自身の日本語能力に自信を持っている学習者は少ない。
- (7) 教師とのコミュニケーションやインターアクションを重視する学生が多く、その際にNTは媒介語を使用することが期待されている。
- (8) 教師の年齢よりも性格を重視する傾向にある。

## 5. 今後の課題

今回の調査により、TTへの満足度とその要因と、ビリーフの分析によりタイ中等教育における課題が明らかになった。しかし、今後より深くタイ中等教育の学習者のビリーフを理解するために、学習者だけでなく、NNT・NT両者の意識と比較し、教師と学習者のビリーフの差を明らかにする必要がある。また、より詳細なデータを集めるために、インタビューや授業観察によるデータにより、さらに深い分析を行う必要がある。